

飼料用トウモロコシ、スイートコーン、

イネ、野菜類を加害する

「ツマジロクサヨトウ」に注意してください

ツマジロクサヨトウ *Spodoptera frugiperda* (英名 fall armyworm) は南北アメリカ大陸の熱帯～亜熱帯地域原産の外来種で、近年急速に分布を拡大しています。2016年にアフリカ大陸に侵入し、現在ではサハラ以南に広く分布しています。アジアでは2018年にインドで初めて確認され、現在、スリランカ、バングラデシュ、タイ、ミャンマー、ベトナム、中国南部（雲南省、広西省、貴州省、広東省、湖南省、海南省、福建省、浙江省、湖北省、四川省、江西省、重慶市、河南省）に分布を拡大しています。

我が国では、鹿児島県の飼料用トウモロコシで発生が国内で初めて確認され、2019年7月5日に特殊報が発出されました。その後、沖縄及び九州各県、高知県、岡山県、茨城県で特殊報が発出されています（2019年8月26日現在）。

被害と診断

長野県での発生は確認されていませんが（2019年8月26日現在）、幼虫がトウモロコシ、サトウキビ、イネ、オオムギ、コムギ、ソルガム、ジャガイモ、タバコ、トマト、ナス、ピーマン、アルファルファ、インゲンマメ、ダイズ、ラッカセイ、カブ、キャベツ、ビート、ホウレンソウ、ワタ、カボチャ、キュウリ、キク、レタス、アスパラガス、ショウガ、カーネーション、バナナ、サツマイモ、タマネギなど80種以上の作物を含む広範な植物の葉、茎、花並びに果実を加害します。日本在来の害虫であるハスモンヨトウやシロイチモジヨトウに近縁で、これらのヨトウガ類と同様に若齢幼虫は葉を裏側から集団で加害し、成長すると加害しながら分散します（図1）。

発生生態（参考データ）

（1）卵

通常150～200個の卵塊（図2）で葉裏に産卵されます。形は球形、直径0.75mm。産卵から2～10日（通常3～5日）でふ化します。（卵から成虫に必要な有効積算温度559日度、発育限界温度10.9℃）

(2) 幼虫・蛹

幼虫の大きさは終令（6 齢）幼虫で体長 30-40mm（図 3）、幼虫の期間は 14～21 日
幼虫は共食いする性質があります。

蛹の大きさはオス 13-15mm、メス 16-17mm、蛹の期間は 9～13 日（蛹期間の発育零点は
14.6℃、有効積算温度 138 日度）

(3) 成虫

オス体長 16mm、開張 37mm、メス体長 17mm、開張 38mm

オスの前翅は、暗灰色と褐色で、翅端と中央に三角形の白斑を有しますが（図 4）、メス
では前翅に明瞭な紋様を欠き、色は灰褐色～褐色まで様々。メスの生涯産卵数は最大 1000
個

その他

飼料用トウモロコシ、スイートコーン、稲などで疑わしい被害を見つけたら、最寄りの
病害虫防除所か農業改良普及センターに相談してください。



図1 食害の様子（トウモロコシ）



図2 ワタ葉裏に産み付けられた卵塊



図3 ワタ葉上の終齢（6 齢）幼虫



図4 オス成虫

画像は CABI (2019) から引用

参考文献

侵入を警戒する病害虫に関するファクトシート（農林水産省 消費・安全局植物防疫課）
CABI (2019) *Spodoptera frugiperda*. In: Crop Protection Compendium, Wallingford,
UK: CAB International. (Online),